

三股町文化財報告書 第8集

ミ マタ チョウ ナイ イ セキ
三 股 町 内 遺 跡 VI

2006年

宮崎県三股町教育委員会

三股町文化財報告書 第8集

ミ マタ チョウ ナイ イ セキ
三 股 町 内 遺 跡 VI

2006年

宮崎県三股町教育委員会

序

三股町教育委員会では、近年の開発事業等の増加により、埋蔵文化財の保護と諸開発との調整が大きな課題となっております。そこで、平成6・7年度に実施された町内遺跡詳細分布調査の結果をもとに、開発行為については事前の試掘・確認調査を実施しているところであります。

本書は平成17年度に実施された試掘・確認調査の報告書であります。

本書が、三股町の文化財保存に対する理解と認識の一助となれば幸い
であります。

最後になりましたが、調査に御協力頂いた関係諸機関並びに地権者の方々に心より感謝申し上げます。

平成18年3月

三股町教育委員会

教育長 田中久光

例　言

1. 本書は、三股町教育委員会が国・県の補助を受けて、平成17年度に実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。

2. 遺跡の名称は小字名による。

3. 調査体制は以下の通りである。

調査主体	三股町教育委員会	教育長	田中 久光
		教育課長	野元 祥一
		同 課長補佐	森 正一
		同 係 長	溝口 幸子
		主　　査	黒木 欣綱（調査・庶務・執筆・編集担当）

4. 本書に使用した写真は、黒木が担当した。

5. 報告書中の方位は磁北である。

6. 諸記録は三股町教育委員会で保管している。

本文目次

1. 外戸口遺跡群・中原遺跡群の確認調査	1
2. 前畠遺跡の確認調査	4
3. 藤木地区の試掘調査	5

挿図目次

第1図 基本土層柱状図（外戸口・中原遺跡群）	1
第2図 周辺遺跡位置図（外戸口・中原遺跡群）	2
第3図 周辺遺跡位置図（前畠遺跡）	4
第4図 周辺遺跡位置図（藤木地区）	5

図版目次

図版1 宮ノ原地区基本土層	1
図版2 宮ノ原地区調査状況	3
図版3 前畠遺跡・藤木地区調査状況	6

1. 外戸口遺跡群・中原遺跡群の確認調査

[遺跡の位置と環境]

当地は三股町の西部に位置し、北部は萩原川、南部は年見川に囲まれた平地で、現況は広域な畑地帯となっている。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』（平成8年度発行）によれば外戸口遺跡群は弥生、古墳、平安時代の包蔵地となっており、南部に隣接する中原遺跡群は縄文、古墳、平安時代の包蔵地となっている。但し、外戸口遺跡群についても平成12～14年度の確認調査により縄文時代の遺物も出土している。平成15・16・17年度では遺物の確認はできなかった。

[調査に至る経緯]

今回の調査は、平成12年度から継続して実施しているものであり、宮ノ原地区における県営畠地帯総合整備事業に起因している。計画区域が127haという広範囲に及ぶ事業であり、計画的な調査が必要であり、三股町役場産業振興課の協力のもと土地所有者との調整を行いつつ、試掘・確認調査を実施している。調査の結果をもとに、畠地帯では集水路の設置工事が継続実施されている。

[調査の内容]

調査はトレーンチ法（2m×3m）で実施した。事業計画内の町道脇の畠地をその調査対象地とし、主に休耕地を選び、土地所有者との調整を行いつつ調査を実施した。平成12年度では23箇所の試掘・確認調査を実施し、13年度は16箇所の試掘・確認調査を実施し、14年度は20箇所、平成15年度は15箇所、平成16年度は25箇所、本年度は6月9日から着手し、合計23箇所実施した。

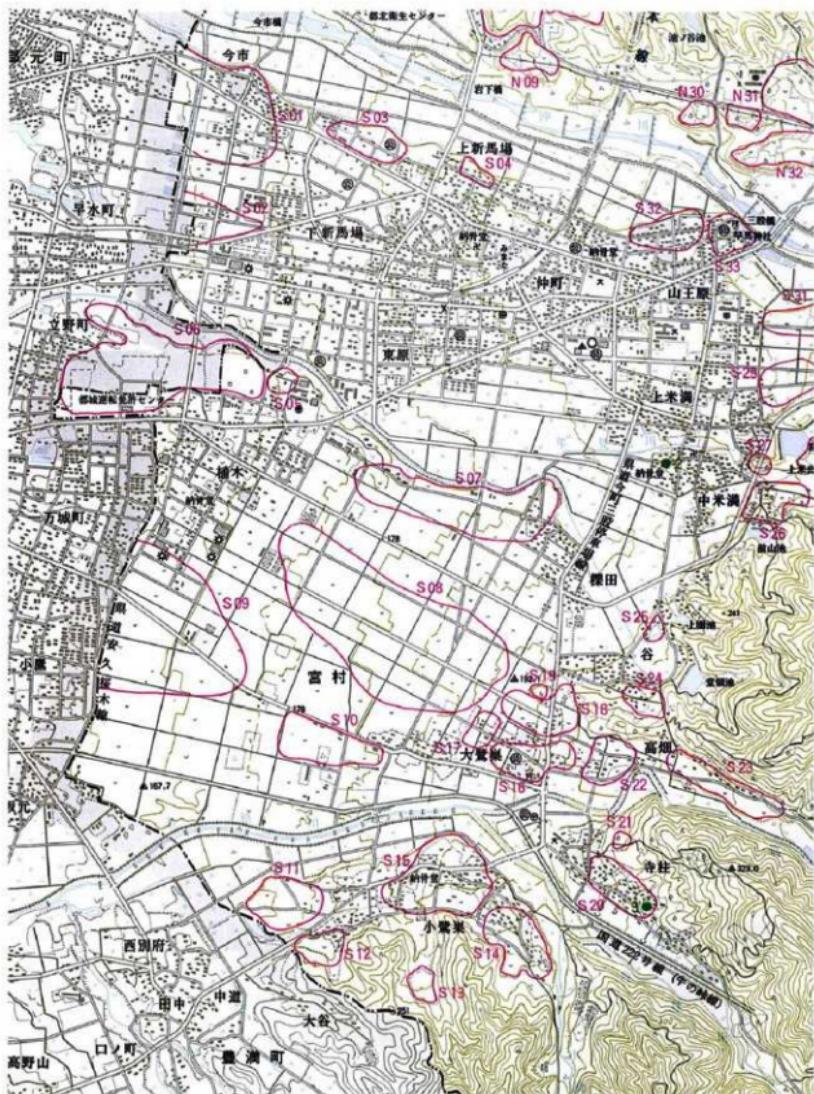
層位は第2図のとおりで、黒色土層、暗褐色土層が包含層であることが確認されており、開発時には慎重に対処していただいている。当遺跡（S7・S8）は、周知の遺跡であるが、当地区は耕作地で場所によってはトレーンチャー跡が見られる等、遺構・遺物の確認が困難であった。周知の遺跡の範囲を縮小する予定である。

表 土
黒 色 土
暗 褐 色 土
黒 褐 色 土
御池軽石層

第1図 基本土層柱状図



図版1 宮ノ原地区基本土層



- S05: 古堀第1遺跡 S06: 古堀第2遺跡 S07: 外戸口遺跡群 S08: 中原遺跡群 S09: 下廣遺跡群
 S10: 上鷹遺跡群 S11: 下水流遺跡 S15: 平原遺跡 S16: 畑田遺跡 S17: 西原遺跡
 S18: 岡下遺跡 S19: 岡之元遺跡 S21: 前畠遺跡 S22: 尾崎遺跡 S23: 高畠遺跡
 S24: 和田遺跡 S25: 中村遺跡 S26: 山内遺跡 S27: 山下遺跡

第2図 周辺遺跡位置図 (1 : 25,000)



宮ノ原地区遺跡(南から撮影)



トレンチ 76



トレンチ 80



トレンチ 82



トレンチ 87

図版2 宮ノ原地区調査状況

2. 前畠遺跡の確認調査

[遺跡の位置と環境]

当地は、三股町の南東部、大字宮村字尾崎に位置する。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』(平成8年度発行)によれば、縄文時代の遺構・遺物を包蔵する前畠遺跡(S21)に当る。

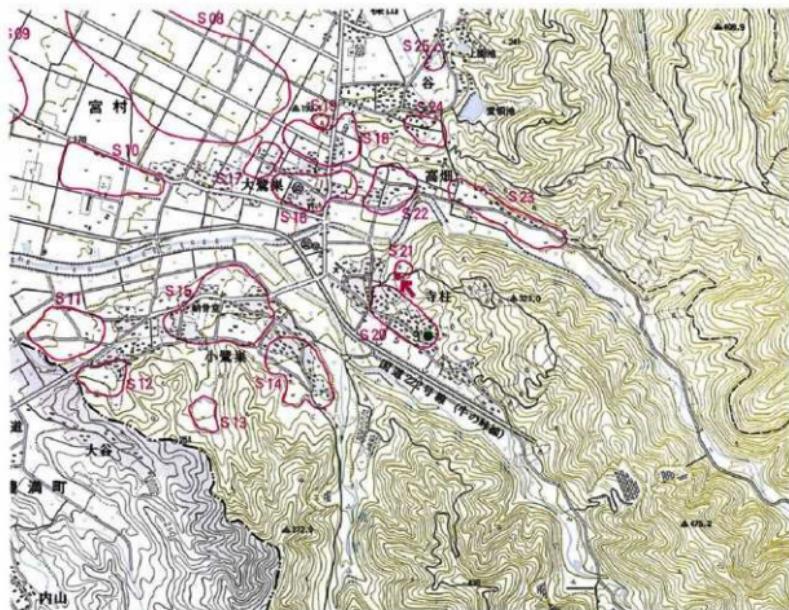
調査対象地から西部約100mの地点では平成5年に県文化課によって試掘調査が実施されており、集石遺構が確認されている。時期は、土器が1点も出土していないので火山灰から推測して旧石器時代後期から縄文時代早期にかけての範囲内としている。

[調査に至る経緯]

今回の調査は、ボーダフォン株式会社による携帯電話無線通信鉄塔建設に伴う確認調査である。確認調査は、平成17年8月12日に実施した。開発予定面積約100m²に対して、2m×3m規模のトレンチを1箇所設定し、人力で掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

[調査の結果]

調査の結果、トレンチからは遺構・遺物は検出されなかった。当地は竹林のため攢乱も多く見られた。対象地周辺の遺物の表探も試みたが、確認できなかった。



S14: 田尻遺跡 S15: 平原遺跡 S16: 煙田遺跡 S17: 西原遺跡 S18: 間下遺跡
S19: 間之元遺跡 S20: 村前遺跡 S21: 前畠遺跡 S22: 尾崎遺跡 S23: 高畠遺跡

第3図 周辺遺跡位置図 (1 : 25,000)

3. 藤木地区の試掘調査

[遺跡の位置と環境]

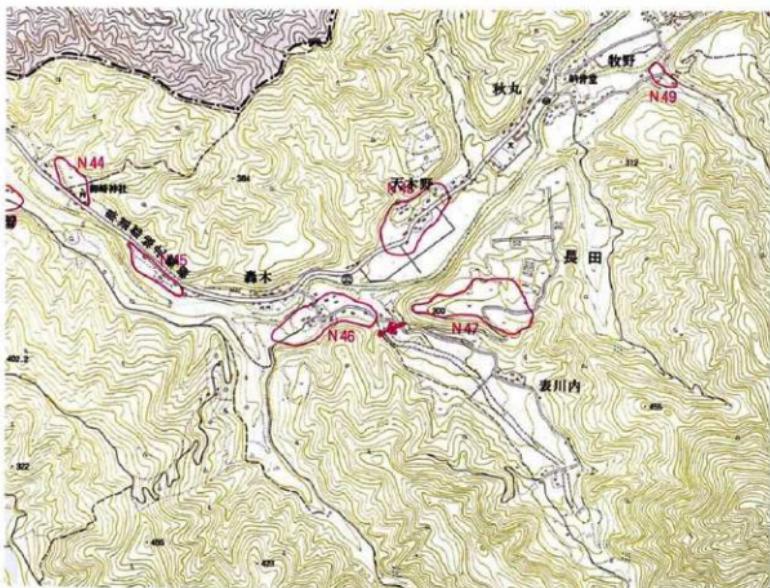
当地は、三股町の東部、大字長田字藤木に位置する。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』(平成8年度発行)によれば、時代は不詳であるが、遺構・遺物を包蔵する遺跡(N46)に隣接している。

[調査に至る経緯]

今回の調査は、第一種電気通信事業施設建設に伴う試掘調査である。調査は、平成17年11月16日に実施した。約100m²の調査対象地に対して、2m×3m規模のトレンチを1箇所設定し、人力で掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

[調査の結果]

調査の結果、トレンチからは遺構・遺物は検出されなかった。



N44：牧遺跡 N45：一堂遺跡 N46：藤木遺跡 N47：火ノ口遺跡 N48：天木野遺跡
N49：小川内遺跡

第4図 周辺遺跡位置図 (1 : 25,000)



前畠遺跡調査状況



轟木地区調査状況



前畠遺跡 トレンチ



轟木地区 トレンチ



前畠遺跡作業風景



轟木地区作業風景

図版3 前畠遺跡・轟木地区調査状況

報告書抄録

フリガナ	ミマタチョウナイイセキ
書名	三股町内遺跡 VI
シリーズ名	三股町文化財調査報告書
シリーズ番号	第8集
編集者名	黒木欣綱
発行機関	宮崎県三股町教育委員会
所在地	宮崎県北諸県郡三股町五本松1-1
発行年月日	2006年3月31日

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
外戸口遺跡群	三股町大字樺山字外戸口、出水、八谷、向原			2005.6.9 ～ 2006.3.31	60m ²	県営畠地帶 総合整備事業
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
散布地	弥生・古墳時代	なし	なし			
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中原遺跡群	三股町大字宮村字中原、北原、西原			2005.6.9 ～ 2006.3.31	78m ²	県営畠地帶 総合整備事業
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
散布地	縄文・古墳時代	なし	なし			
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
前畠遺跡	三股町大字宮村字尾崎			2005.8.12 ～ 2005.8.12	6m ²	携帯電話無線 通信鉄塔建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
散布地	縄文	なし	なし			
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
轟木地区	三股町大字長田字轟木			2005.11.16 ～ 2005.11.16	6m ²	第一種電気通信 事業施設建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
不詳	不詳	なし	なし			

三股町文化財調査報告書 第8集

三股町内遺跡 VI

2006年3月

発行 宮崎県三股町教育委員会

〒889-1995

宮崎県北諸県郡三股町五本松1-1

TEL 0986-52-1111

印刷 花木印刷所

〒889-1802

宮崎県都城市山之口町花木2440-1

TEL 0986-57-2660